

# 愛知県における フクユタカ A 1号導入の経緯

愛知県農業総合試験場  
普及戦略部技術推進室  
船生 岳人

## 本県の大豆作付け概要

### 品種

「フクユタカ」

### 播種

6月下旬～7月中旬

### 収穫

11月中旬～12月下旬

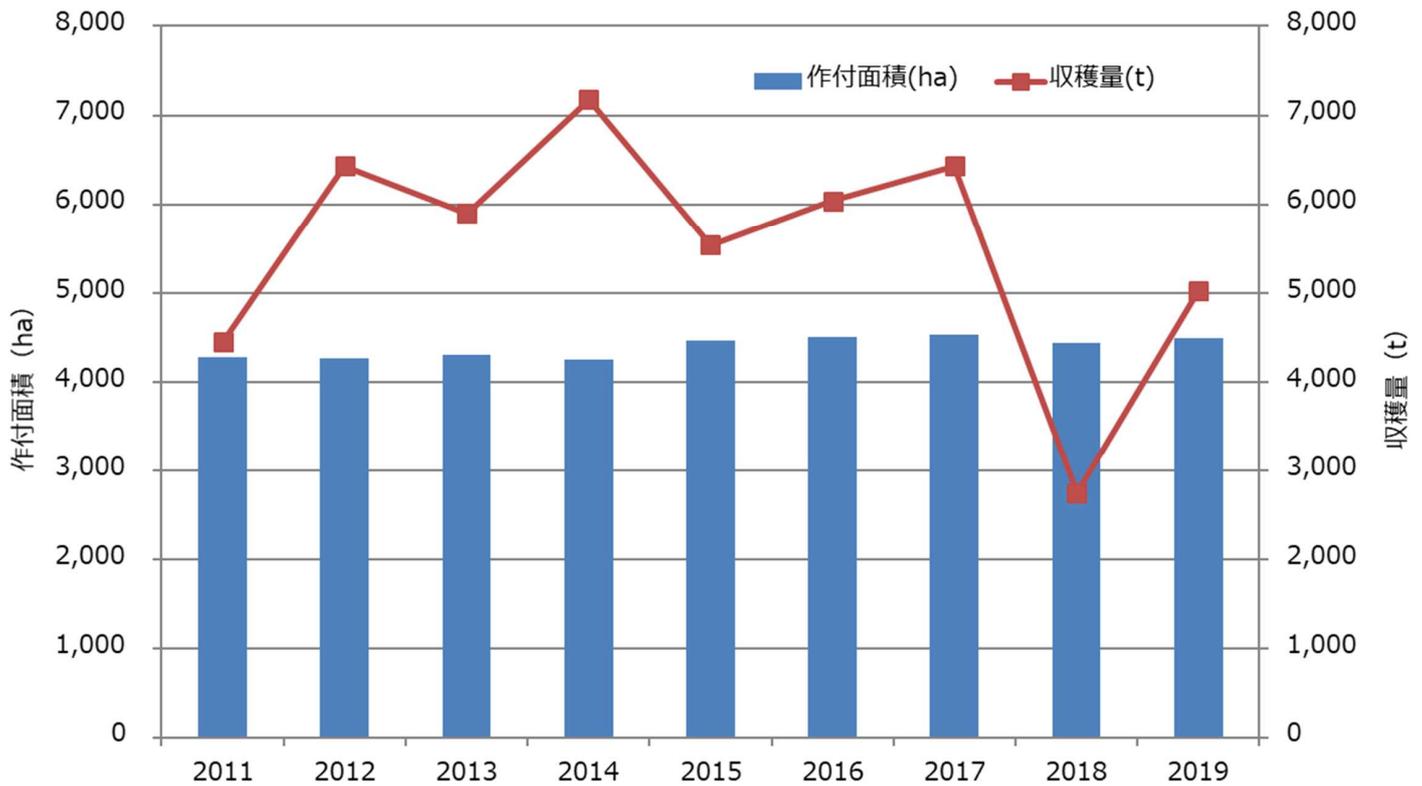
### 特色

大規模経営体による作付けが多い  
水田での作付けが多い。

経営体の規模別大豆作付け面積（2015年）  
（愛知県調べ）

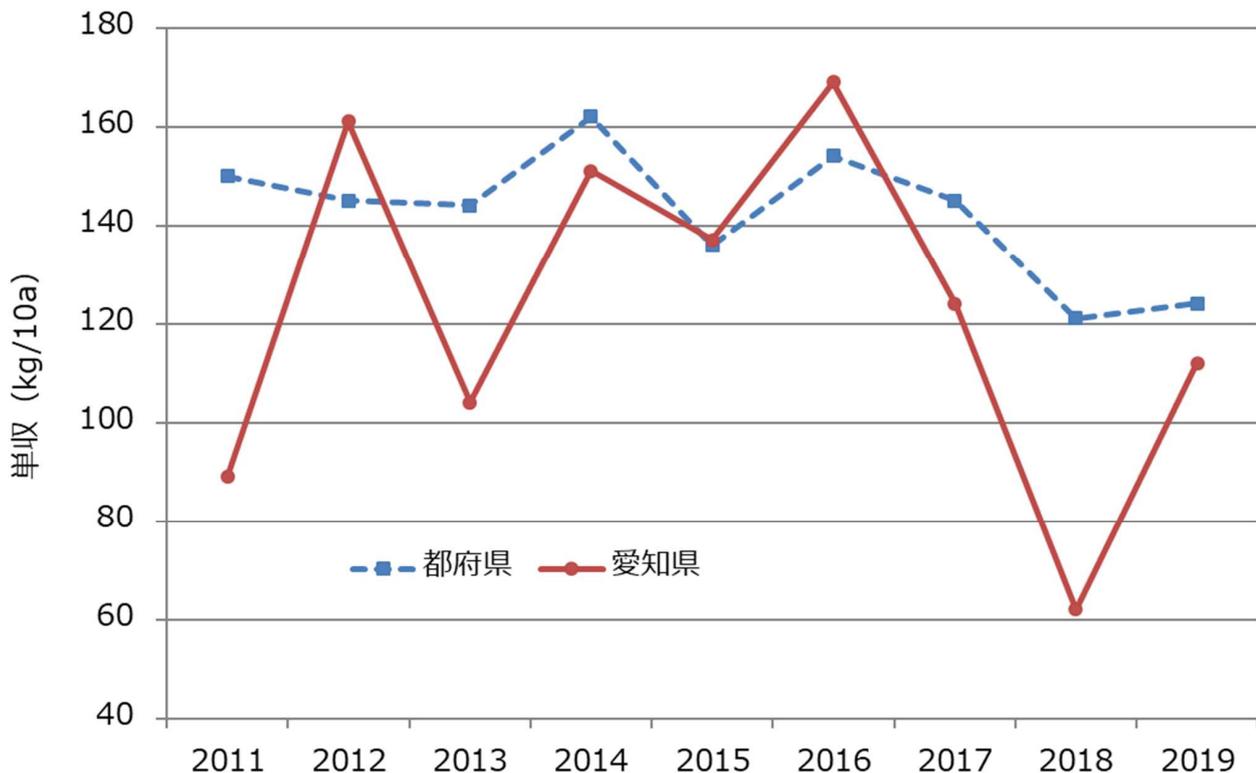


# 愛知県の大豆の作付状況



愛知県の大豆作付面積と収穫量の推移

# 単収の推移

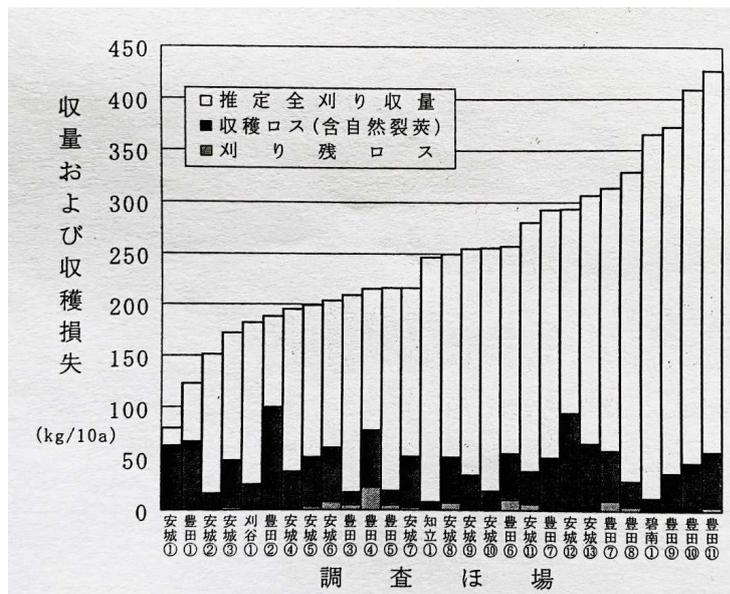


**単収の増加による大豆の安定供給が課題**

# 大豆の低収の要因

- 水田を利用することによる湿害
- 気候不順
- 収穫時の損失

- ① 自然裂莢
- ② コンバインと株がぶつかることによる裂莢
- ③ コンバイン後部からの種子の落下
- ④ 刈り残し



収穫損失の実態（2000年）

損失量 43.8kg/10a(2000)  
 34.8kg/10a(2001)  
 27.0kg/10a(2002)

## 難裂莢性大豆の育成

品種 「フクユタカA 1号」

育成機関 農研機構 次世代作物開発研究センター（2014年7月 品種登録出願）

組合せ フクユタカ\*6///ふくいぶき//タチナガハ/ハヤヒカリ  
 「フクユタカ」の準同質遺伝子系統



裂莢性の比較（60℃ 9時間乾熱処理）

# 「フクユタカA1号」と「フクユタカ」の比較

## 場内結果

調査年	品種・系統名	倒伏	青立ち	主茎長	総莢数	百粒重	収量	対照比率
		0~5	0~5	cm	/株	g	kg/10a	%
7か年平均 (2011~2017)	フクユタカA1号	1.9	1.9	67	62	35.6	249	96
	フクユタカ	2.2	1.4	67	67	35.1	258	100

## 現地結果

調査地域数	品種・系統名	倒伏	青立ち	主茎長	総莢数	百粒重	収量	対照比率
		0~5	0~5	cm	/株	g	kg/10a	%
7か年平均 (2011~2017, 22地点)	フクユタカA1号	2.0	0.9	66	64	32.3	311	105
	フクユタカ	2.3	0.7	69	64	32.0	298	100

**生育特性、収量性は「フクユタカ」と同等**

## 自然裂莢の比較



フクユタカA1号



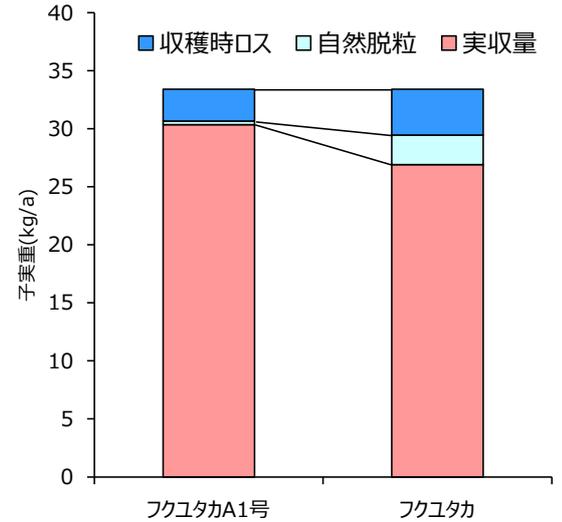
フクユタカ

# 収穫時の損失の比較

損失量の調査結果（2015年安城市、2016年豊田市）

調査年	調査地	品種名	実収量 kg/a	子実重 kg/a	損失量		
					自然脱粒 kg/a	収穫時ロス kg/a	計 kg/a
2015年	安城市	フクユタカA1号	31.2	35.1	0.4	3.5	3.9
		フクユタカ	28.0	35.6	3.4	4.2	7.6
2016年	豊田市	フクユタカA1号	29.5	31.7	0.2	2.0	2.2
		フクユタカ	25.8	31.2	1.7	3.7	5.4
平均		フクユタカA1号	30.4	33.4	0.3	2.8	3.1
		フクユタカ	26.9	33.4	2.6	3.9	6.5

※実収量は子実重から損失量を引いた値



「フクユタカA 1号」の裂莢等による損失は、「フクユタカ」よりも3.5kg/a少ない

## 品質特性

場内試験結果（長久手市、2010～2015年）

	百粒重 (g)	品質	タンパク質 (%)
フクユタカA1号	34.2	4.3	46.3
フクユタカ	34.2	4.4	46.5

品質：1（上の上）～7（下）  
3（検査等級1等相当）、4（2等相当）、5（3等相当）

「フクユタカA 1号」の品質特性は「フクユタカ」と同等

# 「フクユタカA 1号」の加工適性

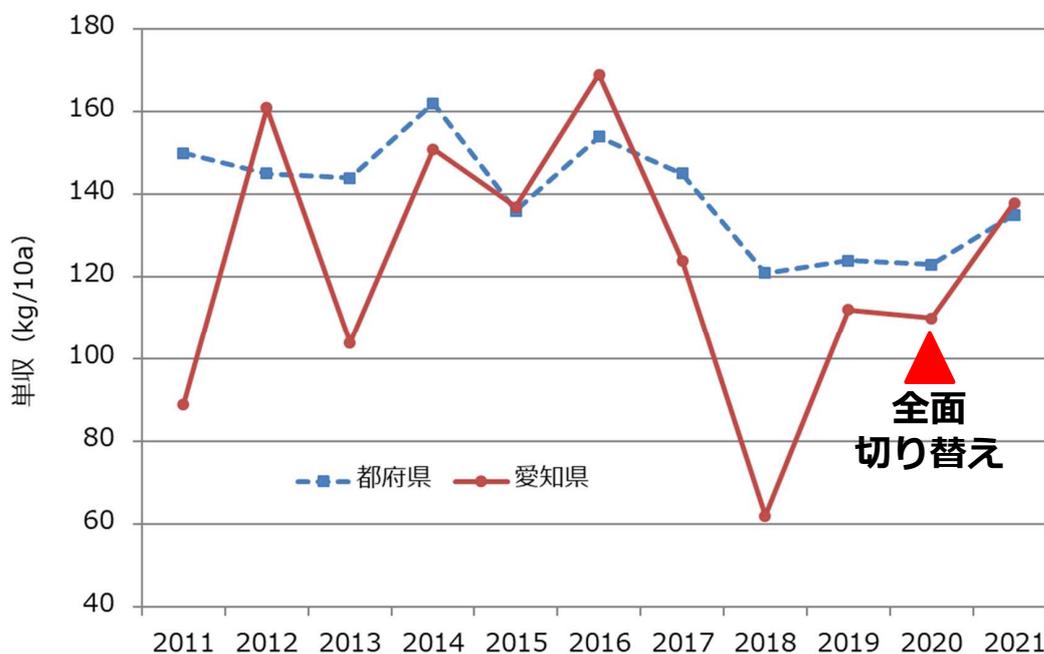
評価者	供試品種 (産地)	基準品種 (産地)	食品の 種類	フクユタカA1号 が流通に 至った場合 に使用でき るか	フクユタカの 代替として 使用できる か
A社	フクユタカA1号 (愛知県)	フクユタカ (愛知県)	豆腐	○	○
B社	フクユタカA1号 (愛知県)	フクユタカ (佐賀県)	豆腐	○	○

農林水産省委託プロジェクト研究「広域・大規模生産に対応する業務・加工用作物品種の開発」

## 導入

2017年 10月に本県**奨励品種**に採用

2020年 **全面切り替え**



単収の推移

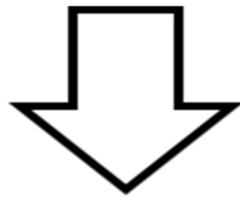
今後、、、

○基本技術の励行

土壌改良材散布、適期播種、病害虫防除、雑草対策、  
適期収穫

○湿害

⇒ カットドレーンによる排水性向上



県産大豆の供給量の増加、安定化